
光

青リンゴ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光

【Nコード】

N4387P

【作者名】

青リンゴ

【あらすじ】

お前とおれは、親友だろ？————大人になる過程の中で、悩むこと苦しむことを初めて知っていく。 ※愛の形の切なさ、同性愛をテーマに置いてはいますが、強くなっていく心・友情を描けたらと思います。

第一話

15歳は光の中を歩く事しか知らない。

生まれてから死ぬまで自分の道を、真っ直ぐにひたむきに進むことだけが、正しいと思っていた。

「てつろー。」

おれの隣を歩く哲郎は最近、大人びた横顔をするようになった。

おれはそれが気になって仕方ない。ほんの少し前まで、弁当の嫌いなおかずを残しては母ちゃんに叱られてたくせに。

「お前昨日女子に、何言われたんだよ？」

からかい半分、焦り半分。

「……好きだって。」

照れを隠す冷たさではない声が返ってきた。可愛くない。

おれ達は隣の家に住む幼なじみってやつで、毎日飽きもせず同じ中学に一緒に通い一緒に帰る。昨日は帰り、教室を出たところで哲郎が女子に捕まった。部活の引退がぼちぼち始まったから最近はこの光景も珍しくない。おれは精一杯の気を使い一人で帰ると言った。

まったく女ってもんはこういう綺麗な顔の男に弱いんだからおれは報われない。

おれだって顔は悪い方じゃないと思うけど、哲郎の隣ってポジションはあんまりだ。

「……で？何て返事したんだよ。」

「興味がないって言った。嘘つくのは好きじゃないから。」

「…お前って可愛くねえよな。」

あの子には悪いけど、こいつらしすぎて笑いが零れた。
張り詰めた空気がほどける。

「うるせえよ。そこが俺の魅力だろ。」

悪いいたずらがばれて叱られてる子供、みたいな顔してた哲郎が、
やっと笑った。

ばーか、お前がもてる理由はその顔だ、笑顔だ、
そう言おうとして、やめた。

こいつはきつとどんな顔だって見た目だって確かに愛を貰うだろう。

「んだよ、何か言えよ、ひかる。無駄にすべっただろ。……あっ？」

くやしいから、飲みかけのペットボトルを奪ってやった。

お約束のように中はコーラだ。

「わっ、わっ、バカ返せ」

「振ってからな。」

がしがしがし！走り去るおれ。

どうせもうコーラは飲めないのに、哲郎がちゃんと騒ぎながら追いかけてくる。

きつと明日も明後日も、たわいの無い話をして笑い合う。

おれ達是一緒に大人になっていくんだろう。たとえばお前が先に大人になったって、その隣にはおれが居てやる。

お前の隣にいと、光のトンネルをくぐってるような気分なんだ。
このままどこまでも歩いていける気がする。

いや、歩いて行ってやるさ。世界の果てまでもいい。
まぶしい光の端っこまで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4387p/>

光

2010年12月12日01時42分発行